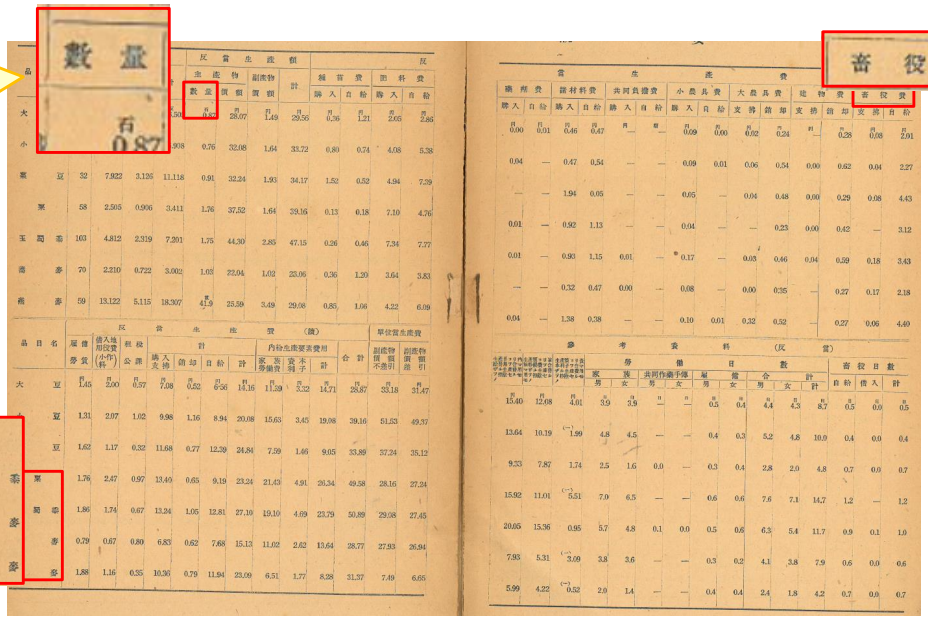
農林水産統計今昔

■ 昭和15年農産物生産費調査（雑穀） ■

九州農政局で保管されている最も古い統計書（昭和15年農産物生産費調査（雑穀））です。
調査対象品目や取りまとめ項目は時代を感じますが、現代とおおむね同じ項目になっています。
調査方法等は現在の調査方法と異なりますが、当時の農業形態や背景が見えてきます。

面積の単位が「反」（現在は「a」、「ha」）、重さの単位が、「石」（現在は、「kg」、「ｔ」）となっています。
また、価格の単位が円以下（銭）で記載されています。

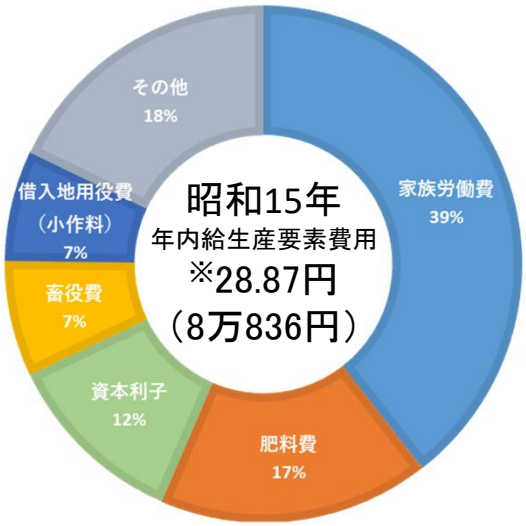


調査品目　「粟（あわ）」や「燕麦（えんばく）」など、今ではあまり栽培されていない作物も当時は調査していたようです。

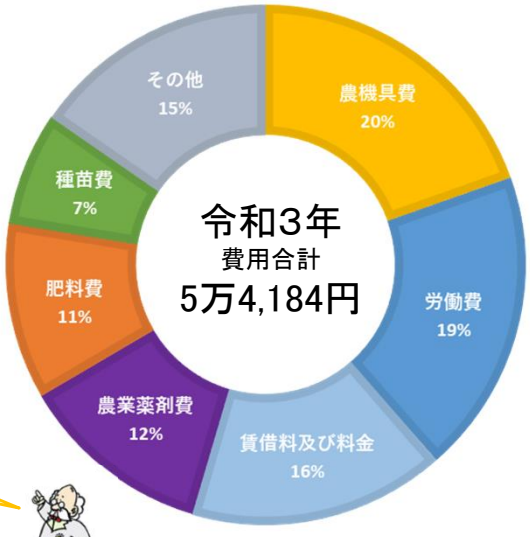
調査項目は、「種苗費」、「肥料費」、「薬剤費」など今の調査でも使用している項目もあるけど、「畜役費」なんて項目もあるようです、今は「農機具費」ですね。

資料：帝国農会調査部「作物統計」昭和17年11月発行

■ 現在の調査結果と比較 ■



昭和15年では、「家族労働費」が約４割を占めていますが、令和３年の「労働費」は約2割と半減しています。
それに変わって、作業委託費の「賃借料及び料金」が増加しています。
また、「畜役費」に変わって「農機具費」の割合が多くなっています。



（ ）の額は、大学卒初任給で試算
昭和15年　80円
↓（約2,800倍）
令和3年226,700円

※　昭和15年の調査は、現在（令和3年）の調査方法とは異なることから、単純に比較は出来ませんが参考として掲載しています。
また、年内給生産要素費用から、費用合計に含まれない資本利子を除くと　25.55円（7万1,540円）となります。

農林水産省
九州農政局